みんなで、〝志実践の花〟を咲かせよう

一人一人が、自らの足場から〝事起こし〟

富士登山をしていて、突然、雲が晴れ、雲の間からくっきりと下界の景色が見えてきたような感動を覚えました。前の日曜日、甲府駅前で開催された公開例会において、二人の『夢甲斐塾』出身者の実践発表を聞いた時のことです。

七期生の前田友和氏と十期生の保坂浩輝氏の発表こそ、私が思い描き、繰り返し訴えてきた、「山梨を良くするための〝志の実践物語〟」でした。『夢甲斐塾』は、一人一人の塾生が、自らの持ち場において、山梨を良くするための〝事起こし〟、〝志の実践〟を始める場です。塾生諸君は、実践の内容や方法は、それぞれの個性により千差万別であっても、「山梨を良くする」思いにおいて、全員、まったく一緒なのです。

私は、二人の発表を聞きながら、思わず膝を打ちました。私の隣で発表を聞いてくれていた萌木の村の舩木上次さんもまた、「いいね。素晴らしい」と絶賛してくれました。二人の発表は、大向こうをうならせたと言っても過言ではないでしょう。また、最近、久しぶりに参加してくれた先輩が、「こんな『夢甲斐塾』なら、これからは積極的に参加したい」とも言いました。

思いは一つ。実践内容は、百花繚乱。

前田氏の発表は、〝山梨トリビア〟。かつて、私が、「知ることは好きになる第一歩。まず諸君は、山梨を知る努力をしなければならない」と話したことを真に受け、前田氏は、山梨のことを様々な角度から学び、毎日、フェイスブックに一口知識を発信し続けているのです。この日は、「富士山の山開きは、七月一日。どうしてこの日でしょうか？また、富士吉田市では、昔から、この日には、ジャガイモとひじきを煮たものを食べます。どうしてか分かりますか？」と切り出しました。参加者一同、説明を聞いていて、感心しきりでした。

保坂氏の発表は、「私のこの帽子は小千谷縮の帽子、首に巻いているのは富士吉田のストール、足の先の下駄、手にしている扇子に至るまで、すべて日本製です。しかも、各地の伝統的な産品です。自分で使ってみて、初めて日本の良さを知ります。みんなが各地の伝統の産品を使えば、地域が元気になります。私は、そんな商品をできる限り多くの人達に普及したいと、発掘し、販売しています」といった内容でした。

二人の発表は、いずれも、地に足が着いています。もし、『夢甲斐塾』の塾出身者が揃って、それぞれの関心に即して、自分の足元から、具体的な実践活動を起こしていけば、百花繚乱、〝実践のお花畑〟になることでしょう。その集合体が、新しい時代の山梨を創造することにつながるのです。

『夢甲斐塾』塾長　上甲　晃